

まち&街

NPOニュース No.9
2022年10月

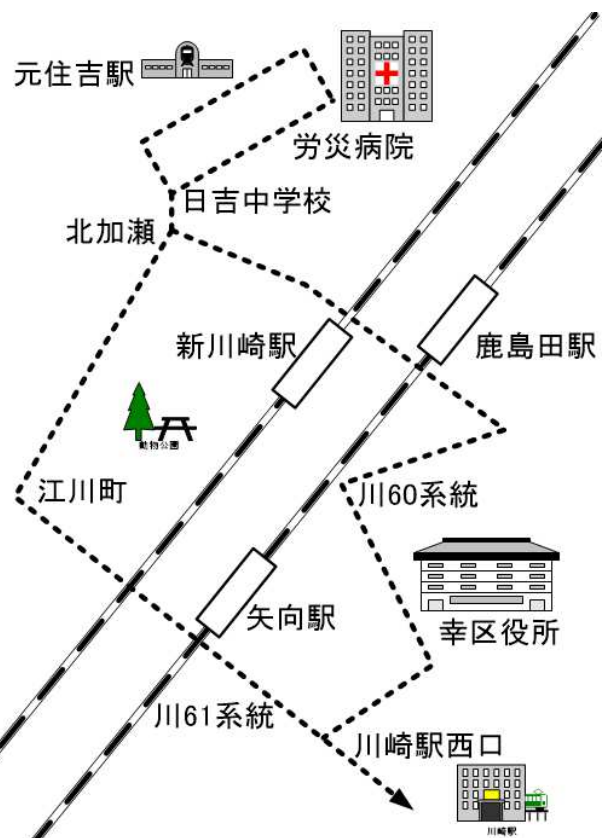


発行: NPO法人 鹿島田・新川崎まちづくりの会

理事長:大野彰 連絡先: 佐藤好行 080-1225-6411

交通アクセス改善署名にご協力を

川崎駅と元住吉を結ぶ臨港バス川60系統は、2020年に一日26本から14時台の1本だけに大幅減便となってしまいました。コロナ禍で利用者が減ったことが大きな理由のひとつですが、バス路線の途中にあるJR南武線「開かずの踏切」で時間通りの運行が妨げられていることも一つの要因でしょう。臨港バスという民間会社の努力だけでは市民の足(交通権)を守るには限界があります。コミュニティバスの運行など新しい手法の導入を含め、川崎市政として市民の交通アクセス改善の努力を求めます。ぜひ、署名にご協力下さい。



【川崎市議会議長あて陳情】

1. 減便した臨港バス川60・川61系統を川崎市の責任で増便すること
2. 鹿島田、新川崎の駅前でタクシーが利用できるように改善すること



㊦ まちづくり講演会の様子

7月23日(土)「人間の顔をしたまち——人と地域をつなぐ南武線に——」と題してまちづくり講演会が開催されました。参加者は37名、女性コーラスの演奏に続いて池上洋通氏の講演を聞きながら、共にまちをつくる交流の場となりました。

2022年度かわさき市民公益活動助成金事業

川 60 バス増便など市民の交通アクセス改善を求める陳情

陳情要旨

1. 減便した臨港バス川 60・川 61 系統を川崎市の責任で増便すること
2. 鹿島田、新川崎の駅前でタクシーが利用できるように改善すること

陳情理由

臨港バス川 60・61 系統は元住吉－北加瀬－鹿島田駅（川 60）または矢向駅（川 61）－幸区役所－川崎駅西口を結ぶ地域の貴重な路線です。一日 26 本あった川 60 系統の運行本数は 2020 年には 14 時台の 1 本のみになりました。

市民の足（交通権）を守り、役所・病院・商店への移動が困難となる「交通弱者」を生まないためには民間営利会社である臨港バスだけの努力では限界があり、市政の力が必要です。

また、鹿島田駅・新川崎駅前に一般利用者のためのタクシー乗降場が無く、高齢者など弱者に大きな障壁となっています。コロナ禍を理由としたバス減便を元に戻し市民の足を確保する事と合わせて、交通権を保障する事につながります。さらに地域経済活性化や住民の福祉増進に大きな力となります。

氏 名	住 所

取扱団体：

鹿島田・新川崎まちづくりの会： 幸区鹿島田 1-4-58 （佐藤 電話 080-1225-6411）

臨港バス増便を求める北加瀬の会： 幸区北加瀬 1-5-26 （竹間 電話 090-7722-5509）

（2022 年 11 月 30 日までに集約）